

## 「市民参加懇談会 in 福岡」の概要

平成 17 年 10 月 4 日

1. 日 時：平成 17 年 9 月 26 日（月）13:30～17:00
2. 会 場：アクロス福岡
3. テーマ：「原子力と暮らし」  
～ 知りたい情報は届いていますか ～
4. 出席者：
  - ・市民参加懇談会コアメンバー  
碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、小沢委員、  
中村委員（司会・進行）、東嶋委員、吉岡委員
  - ・原子力委員会  
木元委員（座長）  
（オブザーバー）齋藤委員長代理、前田委員
  - ・パネリスト  
読売新聞東京本社 論説委員 井川陽次郎氏  
九州大学大学院工学研究院I棟1号室 量子工学部門教授 出光一哉氏  
女性のくらし研究所 所長 大谷鮎子氏  
NPO法人エコネットふくおか事務局長 小出まする氏  
(参加者) 約 160 名  
(プレス) 5 社
5. 概要：
  - (1) 第1部 パネルディスカッション（約90分）を井川陽次郎氏、出光一哉氏、大谷鮎子氏、小出まする氏により行い、原子力についての知りたい情報は届いていますかについてご意見を伺った。
  - (2) 第2部 市民からのご意見（約90分）では、参加者（12名の方々がご発言）からご意見を伺うとともに、

市民参加懇談会コアメンバー、パネリストからの応答を交えて、活発な意見交換が行われた。

( 第 1 部での発言の例 )

- ・ 知りたい情報は立場によって違う。情報を受け取る側としても適切な受け取り方が必要ではないか。
- ・ 原子力発電所で働く人の姿を自分の目で見て安心した。
- ・ 受け取る側も情報を待っているだけでなく、自ら図書館や電力会社等に取りに行くことが必要。
- ・ メルマガ通信が非常に有効ではないか。
- ・ オフサイトセンターの方と地元との住民の交流が必要である。
- ・ 情報を正確に伝えようとしすぎると難しく理解してもらえなくなり、分かりやすく伝えようとする正確さにかける。マスメディアからの情報発信は、すべての人の理解度が揃ってないので、万人にわかるように説明がしにくい。
- ・ プルサーマルの新聞記事を例にとって、全体像が分かっている人には、部分、部分のピースを集めれば全体像が見えるが、それだけを見ると全体像が見えなくて、このピースの意味が分からない。その補完のため講演会を開催している。
- ・ 「環境」がテーマの講座を開くと定員以上の人が集まるが「原子力」がテーマの講演では人が集まらない。聞き手が何を聞きたいかつかまないといけない。
- ・ 国が国民に原子力発電についての意見を公募したとき、Q & A の冊子にその意見が載っていなかった。返事が無くがっかりした。時間がかかっても、答えが欲しかった。
- ・ 自然エネルギーをもっと活用していくべき。便利な暮らしを豊かさある小さな暮らしにできるかを考えることが必要。

- ・「知りたい情報」について、何が知りたいか分かるのが非常に難しい。何が分からないかを問題設定することが重要であり、それができれば、後はすっきりする。
- ・マスコミは、本当に必要な、知っておくべき情報を新聞等で紹介することが役割であると思う。
- ・学者は答えるのが下手。役所の情報は古く最新の情報に対応していない。その中で、これを知りたいという人を増やしていきたい。
- ・知りたいということが分かったとしても、知りたい人と知らせたい人がかみ合わないといけない。
- ・インターネット等の情報が常に更新されていることが必要。
- ・情報を伝える立場として、どこまで公開して良いのかわからない。同じ記事においても、受け取り側で安心・危険のとらえ方が違う。
- ・新聞によって伝え方が違う。大した量でもないのに1億倍等と書くとすごいように思える。伝える側が先回りして答えられる体制が必要。
- ・知りたい情報は届けましたというフォロー体制が必要。
- ・何が知りたいかというのを提起してくれる参加者が多い事が色々な層の人に参加してもらえて、建設的な議論ができる。

## （第2部での発言の例）

- ・原子力のことについて知る機会がなかったため、原子力のメリットを知らなかった。事業者は情報を出しているけど、伝わってこない。
- ・世の中の半分以上の人が原子力をよく理解していない。危険であるという情報で、不安になるという人に関心を持ってもらうことが必要。興味のない人たちに興味を持

たせる最初の第一段階の機会のきっかけ作りが必要。

- ・ 昔は原子力のことを知らなかったが、チェルノブイリの事故から勉強するようになった。電気は原子力発電所からではなく、ウラン鉱山からの取り出しから廃棄物になるまでの一連についてクリアにして欲しい。
- ・ 原子力委員会に核燃料サイクルに関する意見書を出したが、質問に答えて頂けなかった。
- ・ 原子力のことを子供に教えるためにインターネットで検索するが、ヒットする数が多すぎて目的にたどり着かない。個々のトピックスは詳しく記載してあるが、原子力全体に書いてある情報は少ない。原子力に手の届く情報が欲しい。
- ・ 勉強するために、ネットでは情報が多すぎるので、直接電力会社の広報に聴いている。電力会社も教え方に悩んでおり、自分からこのような事を知りたいというと、スムーズに教えてくれる。
- ・ エネルギー問題は長いスパンで考えるべき。
- ・ エネルギー問題は子供のうちから正しい知識を備えて、理解を深め、大人になったときに正しい判断が出来るようになって欲しい。
- ・ 原子力の事が全く知らない人たちに、このような活動をやっていることを、広く伝えられればよい。
- ・ 学校に役立つ情報を提供しているが、教職員が父母の顔色を伺っており、議論になるのを避けている。文科省にガイドラインを作してほしい。
- ・ 原子力発電の必要性や有効性、国の政策がどのくらいの人に伝わっているのかを考えると、残念ながら伝わってきていないところもあると思う。マスメディアの方にしっかりと伝えて欲しい。
- ・ オフサイトセンターでの災害シミュレーションの広域情

報が知りたかったが、そこにいる職員が操作出来なかった。

- ・ 使用済みMOXを国はどうしたいか明らかにすべき。バックエンド試算19兆円、それを全部再処理すると何十兆円になる。使用済みMOXについても、情報をオープンにして議論すべき。
- ・ 物事には必ず裏と表があるので、正しく情報を知りたいければ、双方向コミュニケーションをする努力が必要。
- ・ プルトニウム利用計画及び安全性の情報が届かない。